研究成果

震災時における都市公園の避難所としての機能のあり方に関する調査

久富学 松本圭代 加藤壮一郎

【要旨】

平成 28 年熊本地震は震度 7 が 2 回発生し、さらに余震が頻発する激しい地震であったが、指定避難所のみならず指定外の都市公園等のオープンスペースにおいて、一時的な避難生活を送る避難者が多数発生し、社会の注目を集めた。

今回の熊本地震を経験した自治会役員、都市公園管理担当職員、行政学・建築学の有識者にヒアリング調査を行った結果、都市公園等が避難生活の場となる可能性は今後とも十分にあり、避難生活の場となる場合の運営者、運営要領等をあらかじめ定めておく必要があることが考察された。

【キーワード】

熊本地震, 一時的な避難生活の場, 避難所, 都市公園, 車中泊者・要配慮者支援, 地域コミュニティ, ヒアリング

文化財を有する公園における震災後対応のあり方に関する調査

久富学 松本圭代 中村司

【要旨】

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震で大きな被害を受けた熊本城は、復興のシンボルとして‘見せる’復旧作業が選択され、観光客を含めて注目を集めている。

熊本城の被災直後から初期対応、復旧計画策定、復旧工事に尽力されている熊本城総合事務所担当職員、行政学・建築学の有識者、建設コンサルティング会社の担当者の方々にヒアリング調査を行った結果、文化財を有する都市公園は、発災時に迅速、的確な対応を行うために、平時からの「文化財の調査・記録」及び「文化財を有する公園における震災対応マニュアル」作成が必要であることが考察された。

【キーワード】

熊本地震, 熊本城, 熊本城復旧基本計画, 復旧工事, ヒアリング

都市公園を活用した観光振興に関する考察

平松玲治 青木明代 嶺岸さゆり

【要旨】

本研究では都市公園を活用した観光振興について、既往文献やヒアリングによる事例調査をもとに現状と課題について考察した。その結果、観光振興を構成する要素である、主体、観光資源、観光客、プロモーション、波及効果について都市公園の実態から整理され、これらの要素を公園での実践事例からより詳細に調べることで現状と課題が把握された。現状としては、観光資源は既存のストックを活用している、観光客は修学（教育）旅行の受け入れが重視され、波及効果は住民の意識や行動の変化への影響があるといった特徴が確認された。また、課題としてはインバウンド対応、関係者との連携、パークマネジメントプランの策定が必要であることが把握された。

【キーワード】

観光振興， 都市公園， 事例研究， 観光地域づくり

市民による公園管理運営活動の事例から見た一考察

高橋悦子

【要旨】

市民参加活動が公園及び地域活性化に寄与する点に着目し、市民参加活動8件を事例としてとりまとめ、公園における市民参加活動のあり方について考察した。活動の経緯では、公園管理者からの主導により始まった活動と市民からの提案の2タイプがあり、計画・整備においても、公園計画のタイミングが合えば、市民からの提案が採用されていた。維持管理、運営管理の活動内容に2つのタイプで大きな違いは見られず、公園によって協働、権限委譲、自主管理の異なる形態が見られ、それぞれに公園の活性化の役割を果たしていることが分かった。

【キーワード】

市民参加活動， ボランティア活動， パークマネジメント

メルボルンの公園におけるハイガシラオオコウモリの保全の取り組み

嶺岸さゆり

【要旨】

メルボルンの都心に位置する王立植物園において、1986年、ハイガシラオオコウモリが越冬し、日中の休息地であり繁殖や子育ての場でもある Camp が1年を通じて形成された。その生息数が急激に増加し、においや騒音、園内の樹木の損傷など王立植物園に影響を及ぼしたことから、2003年、ハイガシラオオコウモリの Camp 移転プロジェクトが実施された。移転先の Yarra Bend Park では、生息環境の改善や公園施設の整備、様々な普及啓発の取り組みが行われ、ハイガシラオオコウモリの保全が図られている。ハイガシラオオコウモリに対して誤った認識を持つ人が多いため、共存を進めていくためには、普及啓発の取り組みをより一層展開し、より多くの人に理解を深めてもらうことが重要であると考えられた。

【キーワード】

Yarra Bend Park, ハイガシラオオコウモリ, 保全, 共存, 普及啓発, エコツーリズム

人口減少時代の地方都市における個性ある公園づくりについての考察

青木明代 平松玲治

【要旨】

本稿では、多世代に受け入れられる絵本の物語やキャラクター等のコンテンツを活かした個性ある都市公園について、事例調査を行い、人口減少時代の地方都市における公園づくり（再整備（整備）および管理）について、考察を行った。事例調査からは、地方公共団体のまちづくり、地域活性化、観光、子育て支援、多文化共生、地域創生等との多様な側面に寄与していることや、官民連携の取組が推進されていることが把握された。

【キーワード】

都市公園, 再整備, 人口減少, 地方創生, コンテンツ

飲食サービスの消費動向と来園者のニーズについて

—国営昭和記念公園をケーススタディとして—

尹紋榮 椎名裕介

【要旨】

国営昭和記念公園を対象として、飲食サービスを向上させるための運営手法のあり方や改善案について、来園者の視点から問題を捉え、考察した。その結果、園内で購入を決める要因は、「立地」、「座れる場所」、「価格」であり、一方、「カップルで訪れた20～30代」は「味・品質」を、「知人と訪れた60～70代」は「景色」を考慮していることが把握できた。また、業態別では、売店や臨時売店を合わせて7割以上が利用されており、「知人と訪れた60～70代」や「夫婦で訪れた50～60代」はレストランを多く利用することが把握できた。さらに、世帯属性別では「カップルで訪れた20～30代」は複数施設を利用する傾向が高く、一方「知人と訪れた60～70代」は利用の偏りは少なく回遊性が低いことが把握できた。しかし、今後の要望として、全世帯で「飲食サービスの充実」、「座れる場所の充実」を求めていることが明らかになった。

【キーワード】

国営昭和記念公園, 来園者, 消費動向, 飲食サービス

第24回技術研究発表会優秀研究

地域の新たな文化の創造を目指す自主事業

「長岡花火ウインターファンタジー」の2箇年の歩みと今後の方針

山田貴生 小林雅彦

【要旨】

本稿では、多世代に受け入れられる絵本の物語やキャラクター等のコンテンツを活かした個性ある都市公園について、事例調査を行い、人口減少時代の地方都市における公園づくり（再整備（整備）および管理）について、考察を行った。事例調査からは、地方公共団体のまちづくり、地域活性化、観光、子育て支援、多文化共生、地域創生等との多様な側面に寄与していることや、官民連携の取組が推進されていることが把握された。

【キーワード】

都市公園, 再整備, 人口減少, 地方創生, コンテンツ

公募研究報告

兵庫県立丹波並木道中央公園における中間支援型施設としての公園マネジメントのあり方

片平深雪 門上保雄 塩山沙弥香

【要旨】

本稿は、中山間地域に位置する兵庫県立丹波並木道中央公園（広域公園）における有効な公園マネジメントのあり方を、2011（平成23）年度～3ヶ年をかけ、新規施策の実践と効果検証を通して明らかにするものである。調査手法として新規施策の設定に先立ち地域で活動する10団体・施設にヒアリングを実施し、その内容を考察する中で結果を元に地域現況と可能性を考慮した4つの新規施策を設定した。新規施策実施の結果、年間来園者増につながっただけではなく、特に平日来園者が増加した。また、連携事業数の増加、住民主催の大規模イベントの実施など様々な公園利用の幅が増えたことで、地域にとっての「公園という社会インフラの価値増大」に寄与できた。これにより、地域の現況調査に基づく新規施策設定が大切であることが明らかになり、また、今後はさらなる「公園の価値増大」を進めるためにも、取り組みの継続性が求められる。

【キーワード】

パークマネジメント， 都市公園， 中山間地域， 市民参加， コーディネーター